

香川県三豊市（国内7例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月20日実施）

令和2年11月20日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、5例目の農場から約830m離れた丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林や竹林、休耕地に囲まれている。
- ② 農場敷地の周囲に複数のため池があり、発生鶏舎から最も近いものまでの距離は約50mで、現地調査時にはカモ類は認められなかった。約300mの距離にあるため池ではコガモ6羽、マガモ3羽、カイツブリ3羽が確認された。なお、当該農場から約1.8km離れた位置に、他の発生事例（1、3、5例目）の調査時に確認した長径約500mの池があり、今回の調査では、ヒドリガモ301羽、マガモ30羽、カルガモ10羽等、多数の水鳥類が確認された。
- ③ 当該農場には2階建てのウィンドレス鶏舎が7棟、セミウィンドレス鶏舎が5棟の計12棟の鶏舎があり、発生時すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は農場の最も奥に位置するウィンドレス鶏舎の2階部分であった。

2 通報までの経緯

- ① 1例目、3例目及び5例目の発生を受け、実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 管理人によると、発生鶏舎における1日あたりの死亡鶏は、11月以降0~9羽程度で推移していたところ、11月19日に49羽の死亡鶏が固まって確認されたことから家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ③ 管理人によると、発生鶏舎の11月19日の死亡鶏は、4列ある背中合わせの直立4段ケージの左から2列目の、中央付近かつ最上段に多く認められ、1ケージあたり死亡鶏は0~2羽程度で20から30ケージ程度にわたって分布していたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では17名の従業員が専属で管理を行っており、発生鶏舎を含む2階建て鶏舎2棟は、このうち4名の従業員が主に管理していた。毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、農場内の焼却炉で処理している。
- ② 従業員が担当する鶏舎は決まっているが、定期的にローテーションすることもあり、また、担当の従業員が休みの日には別の従業員が代わりに作業を行っていた。
- ③ 管理人によると、従業員は農場専用の作業着と長靴を使用していた。また、鶏舎毎に専用の長靴と踏み込み消毒槽を設置していたが、長靴の履き替えの際に鶏舎内外の動線が交差していた。なお、鶏舎毎の手指消毒は実施しておらず、従業員によっては手袋の交換も行っていなかった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、水道水がいったん農場内の貯水タンクに貯蔵され、パイプによって各鶏舎に供給されている。
- ③ 鶏舎から排出された鶏糞の処理施設には防鳥ネットが設置されていない、または設置されているが常時開放されていた。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。

- ⑤ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、農場の入口に設置された動力噴霧器により消毒しているとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎の鶏舎構造は、片側の壁面に設置された換気扇から排気し、反対側の壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇の外側には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場内では、現地調査時に多数の野良猫とカラス、スズメが確認された。
- ② 管理人によれば、発生鶏舎では、鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部のシャッターの閉鎖が作業者に指示はされていたが、作業の確認はしていなかったとのことであり、閉鎖されていなければ、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。
- ③ 管理人によると、発生鶏舎内でネズミを見かけることがあり、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。現地調査時には、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞やネズミによるものと思われる断熱材の齧り痕が確認された。